

外気温感応型フィルムの効果確認試験

JAきたそらち

山崎 靖博



慣行区



慣行区 正面



慣行区ハウス内

試験目的

ハウス栽培における高温障害対策

試験作物 及び品種

きゅうり
品種「実多」

試験資材 及び数量(規格)

調光ライト(0.1mm×770cm×54m) 1枚

慣行資材

クリンテートFX

栽培方法

播種日	定植日
慣行区:4月中旬 試験区:4月中旬	慣行区:5月上旬 試験区:5月上旬

資材使用期間

4月上旬～10月上旬



試験区



試験区 正面



試験区ハウス内

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

展張作業に違いはなかった。

慣行区と比べてハウス内が涼しく感じられ、作業がしやすい気がした。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

今年は6月の日照が少なく、また慣行品と比べて透明度が少し低いことが影響してか、試験区は少し徒長気味であったが、収穫量に影響はなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 高温による焼け被害を軽減できると思うが、今年は高温の日が少なくフィルムの恩恵は感じられなかった。ハウス内の温度が低く感じ、作業がしやす感じた。

【問題点】: 価格が高い。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

変わらない。

(5)保温効果について

変わらない。

モニター感想

慣行品と比べるとフィルムの透明度が少し低く、また6月に日照が少なかったことが影響したのか、6月時点では日陰側のハウスと同様に少し徒長気味に感じられたが、収穫量には影響はなかった。また、葉焼けの被害は慣行区と同程度発生していた。散乱光フィルムの効果なのか、ハウス内の温度が慣行区と比べて低

いように感じ、作業しやすくなった気がする。年によっては焼け被害によって収穫量が下がるため何か対策が必要だが、試験品は慣行品と比べると価格が2倍以上であること、耐久性が変わらないことを考えると、葉が焼けないための対策資材としてはコストが見合わないと感じた。来年も継続して使用するため、来年は良い結果が出ることを期待したい。

JA担当者の感想(資材課 越智調査役)

実際に試験品の透明度が温度によって変化する様子を見たり、ハウス内の温度が慣行区よりも低く感じられたので、高温対策資材として有用であると感じた。しかし価格が慣行品よりも2倍以上も高いため、費用対効果を考えるとコストが高いように感じた。

今後の使用について

改良して欲しい。
慣行品の価格にもう少し近くなるように改良してほしい。

将来希望する資材について

より安価な調光フィルム。
安価で省力的な高温対策資材。